

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◆◆◆ No.0801 ◆◆◆

24/08/07

【 金融市場の動揺収まらず、「為替経験則」にも要注意!? 】

今回の当レターは、恒例となっている経験則をもとにした月間相場見通しをおとどけしたい。しかし、その前に先週実施された日銀金融政策決定会合について、一言申し上げておく。おそらく来週改めて取り上げることが出来ると思うが、明らかに「利上げ実施は間違い」だった。もっといえば、筆者は利上げをする or しなくてはならず、「そもそも利上げできない」—と考えていたので、結果はまさにサプライズ。いや「青天の霹靂」だった。そして、その後の金融市場の混乱は改めて説明するまでもないだろう。まさに「将来に禍根を残す」一撃となった感を否めない。

◎経験則、「8月月は金融に関する重要な事象が起こりやすい」は大当たり

すでに終了している7月のドル/円相場、その月間変動は実に12.35円(149.61-161.96円)にも及ぶ。これには、先で取り上げた日銀会合結果が多大な影響を及ぼしていたことは疑いなく、実際7月最終日、31日の一日だけで変動幅は4円を超えていた。

いずれにしても、7月の月間変動は今年最大になっただけでなく、ここ数年の月間最高変動だった2022年11月の11.32円も上回るものに。さらに調べてみると、2016年11月の13.36円(101.19-114.55円)以来の大きさだった。つまり、10年に一度の大相場だったと言えるかもしれない。

そして、そんな大相場は月が替わり、8月に入っても収まっていないことは周知のとおり。

今週の週明け5日には東京タイムだけで約5円もの変動を記録している。先でも指摘した「日銀ショック」がそのすべてではなく、先週末に発表された7月の米雇用統計悪化などの要因も加わったうえではあるが、為替だけでなく株式や債券、暗号資産(仮想通貨)など金融市場全般の動揺はまだまだ続いていることは間違いないだろう。

さて、月初から大荒れのドル/円相場だが、経験則から見た場合の8月相場は果たしてどうか。巷間では「8月相場は円高有利」という話をよく聞き、実際に7月27日付けの日経新聞でも、またもや「8月円高に警戒感」と題し大々的にレポートしていた。

しかし、1990年以降昨年までの過去34年間の勝敗表をみると、15勝19敗という状況でそれほど極端に円高が有利という状況にはない。また、2014年から昨2023年まで過去10年に限れば、戦績はなんと7勝3敗で逆に円安が有利だった。

さらに、改めて指摘するまでもなく、今年の8月相場は月の初めから大きくドル安・円高が進行している感があるものの、オープンレベルはというとザックリ150円。そして本稿執筆レベルはというと144-147円で推移している。

年初来高値161.96円から考えて、ドルの下落は安値141.68円まで20円を超えており、中長期はさておき短期的には行き過ぎ、やり過ぎだろう。これはテクニカル分析のひとつ、RSIの歴史的な低さにも示されている。

つまり足もとは141円台まで突っ込んだ「行き過ぎ円高」の巻き戻し、調整からドルが大きく巻き戻されているわけだが、月末に掛けていま一段の調整が進行すれば、ヒョッとすると今年の8月相場も「ドル高・円安」傾向で終了する可能性もないではなかろうか。

実際、161.96円から141.68円までの下げ幅の「半値戻し」と考えてもドル/円相場は150円を超えてくる。日経新聞が取り上げた「8月円高有利」という古い経験則にあまり囚われ過ぎず、実勢相場をにらみつつ、フレキシブルな対応を是非とも臨みたい。

一方、過去8月のニュースや世界情勢を調べてみたところ、為替や金融に関する重要な事象が起こることが少なくないことがわかった。

一例を挙げると、「ニクソンショック(1971年)」「EMSの通貨調整(1993年)」「ドル/円が100.40円の当時最安値を記録(1993年)」「ドル/円が147.64円のドル戻り高値示現(1998年)」「ルーブル危機(1998年)」「1995年記録のドル最安値79.75円を初めて下回る(2011年)」—などとなる。

いまさらという気もするし、完全な「後出しジャンケン」で申し訳ないが、確かに今年の8月も上記経験則が当てはまったようだ。その典型事例は、5日の「日経平均株価がブラックマンデーを上回る下げ幅記録、前日比4451円安で大引け」ーになるだろう。また翌6日の「日経平均株価が急反発、終値ベースで3217円高と過去最大の上昇幅を記録」ーも同様だ。

幸か不幸か為替ではなく株式に関する歴史的事象ながら、先でも指摘したように「日銀ショック」を受けた金融市場全般の動揺はいまだ続いている。今後、株式市場の動揺が為替市場などへも飛び火、良いか悪いかは不明だが、歴史的な事象を達成する危険性も残っていると、改めて気を引き締めなおして取引に臨んでいただければと思う。（了）



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter